

講義名	対)特別講義（プロデュース論）			
担当教員	長田 貴仁			
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

テレビや雑誌の企画・制作は厳しいプロの現場である。社会動向や流行、視聴者の嗜好を見極めて企画を起こし、制作費をスポンサー企業から外部調達する。このようにしてスタートした後は、さらにトレンドなどの人材の能力や特性を見極めて魅力を引き出し、企画内容に合わせて取材をし、素材を編集してクリエイティブとビジネスのバランスを取りながら毎週の番組を連続なく作り上げていく。このすべてのプロセスを指揮するのがプロデューサーや編集長といった職種の人々である。

この講義は平日のテレビを考える余の協力の下、テレビ局や雑誌社などの第一線で活躍する外部講師が毎回講義を担当してメディアの最前線で感じる社会の動きを、これから社会に第一歩を踏み出す学生向けに語ってもらう。

到達目標

プロジェクトをマネジメントするにはなにかを理解できる。
プロジェクトを成功させる要因について理解できる。

提出課題

適宜指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

適宜対応する。

評価の基準

講義関連レポート（50％）、期末レポート（50％）、授業参加度が高い学生は加点する。
本講義では、現代ビジネス社会の評価基準である「信賞必罰」を適用する。
「現代ビジネスの基本」は契約である。履修登録した段階で、以下の契約内容に同意したことになる。良い結果を出した人は高く評価する。本講義開始後に守らない場合は、「契約違反」として処する。
1. 「ネアカ」のひのびへこたれず」の精神を体現し、組織（クラス）のモチベーションを高める前向きな姿勢を身けた人は努力点として加点する。
2. 他の科目と前後、出席は当たり前、無断欠席は大減点。欠席する場合は証明書類（例：公欠病、医師の診断書が病院の領収書写し、など）を提出せよ。
3. 前向きな姿勢を寄せ、良い結果を出さなければ出席している意味がない。遅刻り、私語など、組織（クラス）を落とす迷惑行為、業務（授業）を妨害する行動、発言については、始末書の上書きを求める場合がある。その結果として、大幅減点になることを認識し、大人としての行動」を心掛けて欲しい。

履修にあたっての注意・助言他

この講義はマスコミの仕事やテレビの制作プロセスの理解のために置かれるのではない。演出論や制作りに拘泥せず仕事を進める方法の基本的な理解を目的とする。これは卒業後に仕事をしていくために必要な能力であることと、学内でのアクティブラーニングを始め様々なプロジェクトを進める上でも大きな力となるだろう。
本講義は外部から招聘した外部講師が担当することから、失礼のない前向きな態度で臨んで欲しい。受講生の態度の良し悪し、積極性の有無が「流通科学大学の学生」の評判、ひいては本学のブランドに影響する。ブランド力が下がれば、自身だけでなく他の学生の将来にも悪影響を及ぼすことを自覚しておいて欲しい。受講生一人一人が、「大学の顔」である。

教科書				
.使用しない.				

プリント資料及び参考文献

授業計画

授業計画は初回の講義で提示する。

授業形態（アクティブ・ラーニング）			
	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講師については一覧であらかじめ示しているので、よい質問ができるように事前に検索してどのような方が調べておくこと。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

「創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材」を育成するため。
「新しい視点と豊かな発想によって、新しい価値を生み出すことができる」ようにする。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。プレジデント社に編集者、記者として勤務し、ビジネス・ジャーナリズムに関する実務経験を積んだ。現在もジャーナリスト、経営評論家として取材し、メディアに発信している。

備考

授業計画は変更される場合がある。